

例会日：毎週木曜日 12 時 30 分
 例会場：岐阜県郡上市八幡町小野 67(八幡建設 2F)
 TEL (0575) 67-0314 FAX (0575) 67-0005
 E-mail: rc-8man@abeam.ocn.ne.jp
 URL: http://gujohachiman-rc.com/

会 長 : 三原慎也
 副 会 長 : 野田三津雄
 幹 事 : 西村 肇
 公共イメージ : 松森 薫
 会報担当者 : 田中義久

2023 年度国際ロータリー会長：ゴードン R. マッキナリー (サウス・ウエスト フェリー ロータークラブ・スコットランド)

2023 年度国際ロータリーテーマ：CREATE HOPE in the WORLD (世界に希望を生み出そう)

<本日のプログラム>

第 2871 回 令和 6 年 5 月 9 日 第 2 木曜日
 会員卓話 松森 薫会員
 平岩あゆみ会員

<次回の予定>

第 2872 回 令和 6 年 5 月 16 日 第 3 木曜日
 社会奉仕例会

<前回の記録>

第 2869 回 令和 6 年 4 月 25 日 木曜日
 会員卓話 竹内巧治会員
 川嶋成樹会員

司 会 進 行 平岩あゆみ副 SAA

点 鐘 三原慎也会長

ソ ン グ 郡上八幡ロータリーの歌

出 席 報 告 森下 光出席担当責任者

会員数	出席	補正	出席合計	出席率
37 名	29 名	8 名	37 名	100%

ニコBOX 國田大雄ニコ BOX 担当責任者

- ・本日の会員卓話、竹内君、川嶋君、宜しくお願いします。 三原慎也
- ・竹内君、川嶋君、卓話楽しみです。宜しくお願いします。 西村 肇
- ・今日は卓話ですが、川嶋君メインでお願いします。 竹内巧治
- ・初卓話です。宜しくお願いします。 川嶋成樹
- ・卓話宜しくお願いします。 渡邊 剛
- ・竹内君、川嶋君、卓話楽しみにしております。
 遠藤一史・平岩あゆみ・平岩憲政・廣瀬泰輔
 細江洋司・岩出明喜・可児一彦・河合 修
 河合和也・國田大雄・松森 薫・水上成樹
 森下 光・村井裕孝・永瀬和郎・西川 昇
 野田三津雄・大川達也・酒井智義・坂本 仁
 田中義久・富澤義人・山川直保・山下友幸

幹 事 報 告 西村 肇幹事

- ・ガバナー事務所よりチャリティーゴルフ大会ご出席のお礼
- ・第 2760 地区ガバナー事務所より第 1 回ロータリーフードフェスティバル開催のお知らせ
- ・郡上長良川 RC より例会休会のお知らせ
- ・伊勢崎中央 RC 友好クラブ提携実行委員会について

委員会報告

可児一彦親睦委員長

- ・親睦旅行のお知らせ

IDM 報告 西村 肇幹事

テーマは公共イメージでした。ロータリーを知って頂くために、地元新聞社やケーブルテレビなどを使ってロータリーの活動を広く発信しています。他にも、中部経済新聞にロータリーの例会などの予定や行った活動を掲載するページがあります。コロナの時に一度、保育園への寄贈活動を発表させて頂きましたので、今後も活用していくと思います。

会長の時間 三原慎也会長



皆さん、こんにちは、先週の金曜日 19 日に、ガバナー杯チャリティーゴルフ大会へ出席させて頂きました。大変良いコースでした。チャリティーゴルフ大会ということで、クラブハウス内ではポリオの募金活動、ショートホールではワンオンチャレンジ、プロの方がみえておましてプロにチャレンジなど、色々な形でチャリティーが行われ、総額 181,000 円集まりました。これを

ポリオ募金、米山記念奨学会に寄付させて頂きまず、とガバナーの方から連絡を頂いております。結果ですが、団体戦ダブルベリアで3位になりました。ありがとうございました。

会員卓話 竹内巧治会員



今日は、私と川嶋君の卓話です。川嶋君は初めての卓話なので話すことがたくさんあると思うので、私はさわりだけお話しして後は川嶋君をお願いします。

私と川嶋君は二人とも美並で、実は川嶋君のお父さんとは35年以上の付き合いがあります。どういう関係で付き合ったのかと言うと、慈恵中央病院の患者さんが、入院しながら昔は働きに行っただけです。今では考えられないんですが、入院中の患者さんが外に働きに行く。そして、その人達が退院すると、病院の横に共同住宅があって、そこに住んで働きに行く、ということをやっていました。その会は、今からもう50年ぐらい前に始まったらしいんですが、一番最初に始めたのが荻安の丸通工芸さんです。皆さんも知ってみえるかもしれませんが、桜井製作所さんなんかも一生懸命やってみて、一番多い時は18社くらい美並に会社があって、そこと病院が連携して患者さんが働きに行っていました。患者さんは、昼間は働きに行き、夜は病院で過ごす、といったことをやっていました。どんな会社があったかと言うと、縫製とか飲食店、木工、金属加工、プラスチック加工などだったと思いますが、だんだん仕事が減ってきたのか、まず縫製の会社がなくなってしまいました。それから、プラスチック加工とか木工とか順番に減っていきました。それと、仕事が減ったということもありますが、働きに行ける患者さんがいなくなってしまいました。元々、当時20代、30代、40代の若い患者さんがいっぱい入院していて、その人達が働きに行っていたんですけど、そういう人たちが働きに行くのはおかしいということも国からも言われるようになって、働きに行けるなら退院させなさいという、当然といえば当然なんです。そういうことで仕事に行く人が減ったし、仕事の行き先も減ったということでだんだんなくなってきて、今から15~20年前くらいにそういうことはなくなってしまいました。でも、その当時、私が勤めた30年前くらいは盛んにやっていて、その時に川嶋さんのお父さんとは毎年その会でよく旅行に行ったり飲み会をやったりしていました。川嶋さんのお父さんは物静かでありしゃべらない人だったと思うんですけど、非常に付き合いのいい人でした。私が勤め始めた最初の年から一緒に旅行に行き、楽しく過ごさせて頂いた思い出があります。今では病院から患者さんが働きに行くことはないんですが、今でも少数の患者

さんは、昔働いていた会社に働きに行っているということは多少続いています。今は障害者はどういところで働いているのかというと、国が指導してA型事業所、B型事業所で働いています。これはどういう制度かと言うと、A型事業所は最低賃金を保障して障害者を雇用しています。これは経営的には結構厳しくて、職員の運営費は国が出してくれますが、患者さんの給料は儲けから支払うことになっています。以前はA型事業所があちこちにありましたが、だんだん減ってきています。もう一つのB型事業所というのは、賃金はもう少し安くて、1ヶ月しっかり働いても2万円くらいで、中には数千円という人もいます。郡上市でいうと大和町のぶなの木学園とか、つくしの家とかあります。今はそういった場所があるので病院から直接仕事に行くということもなくなってしまいました。昔に比べると障害のある人が働く場所が増えたので、病院を退院すると働きに行かれる方が思った以上にみえます。今は企業に障害者枠というものもあるので、それで働く方も多くみえます。仕事の内容は、一般の方と同じ人、少し軽めにしてもらおう人、色々です。20年、30年前に比べると障害者の働く場所は増えたなというのが私の印象です。

今日はこれで終わりにして、後は川嶋君をお願いします。ありがとうございました。

会員卓話 川嶋成樹会員



皆さん、こんにちは。初卓話ということでお時間を頂きました。株式会社ミサト工業の川嶋です。初めてなので自己紹介を兼ねて会社の案内と、お仕事発見隊の資料をお配りしたのでその辺の話をさせていただきます。

うちの会社は44年創業で、もともと鉄骨業を父と母2人で始めた会社になります。僕は中学校を卒業して自衛隊に行っただけですけど、その当時までは2人でずっと鉄骨をやっていて、大同メタルさんの仕事でたまたまフェンスを作りに行ったら、加工の仕事をやらないかってことでミサト工業という名前で始めました。ミサト工業という名前は、母がさとみという名前で、それをもじったというふうに聞いています。僕は19歳で自衛隊を卒業して戻って来ただけですけど、その時にはもうパートさん2,3人ぐらいで切削の仕事をやるような会社でした。もう30年ぐらい前なので、当時はまだ工作機といわれるものが町工場にはそんなになくて、本当に汎用の旋盤とフライスでゴリゴリ削るみたいな仕事をしていました。僕が戻ってから一緒に工作機の機械を買ったりとかして、毎年中古も含めて少しずつ機械を増やしていきました。僕が35歳で会社を代わって頂いて代表になりました。そこからなんとか法人にしたいなとい

うことで、株式を目指して少しずつ社員も増えて今 40 人弱ぐらいの工場になっています。仕事は、文字にするとすごく眠たくなるような、軸受メタル NC 精密加工みたいな感じなんですけど、主な内容は大同メタルさんのところの仕事です。メタルといわれるものは、ピストンとか回転するところが両方とも鉄だと熱膨張して、動くところがスムーズに動かなくなります。なので、必ずその間にアルミとか銅とか、昔の旋盤なんかは真鍮板をかましてスライドさせたりして、熱を一番嫌うので間にそういった金属を入れるんですが、大同メタルさんは、その軸受滑り、軸受というものを自社で材料から作っています。外は鉄なんですけど中がアルミとかだと、外の鉄で打ち込んでも中のアルミは熱膨張しないのでピストンがスムーズに動きますというのが産業革命の特許です。なので、産業革命で自動車とかが生まれていく中でこの特許が生まれたので、今いろんな機械が生まれているという、かなり古い時代からあるものです。日本でいうと、自動車を造ろうとした時に、この技術を海外から持ち込んだのが大同メタルさんの先代の社長ということになります。そんな仕事を僕らは部品加工ということでやらせて頂いています。今はプレスというのもやっていて、プレスの設備というのはバンバンバンバン打って行って抜いたりとか曲げたりとかする機械です。あとは工作機で、横に削ったり縦に削ったり、マシニングセンターっていうんですが、そういった工作機だったり、あとはアッセンブリーとかもしてるので、圧入をしたり、ジグとか作ったり、検品もしたりと、こんな感じの町工場です。今はもう少しオートメーション化している機械が入っていて、自動車部品だとショックアブソーバー、足回りのクッションになっている、タイヤの横に付いている部品ですが、それがないと車がスムーズに走りません。細かい部品ですけど、そういうのを一日の生産量とすると毎日 13 万から 15 万個ぐらい作っています。とはいえ、それだけだと町工場の話なので、そういう仕事というのは結構環境に左右されたりして、なかなか儲けることも難しい外注仕事なので、リーマンの後に、うちの会社の中で作れる毛抜きだったり、いろんな商品の開発をして自社商品を販売していこうっていう動きをしました。今はこの毛抜きのヌークは作っていないんですが、今年から復刻版でもう一回作るという話が出ています。今力を入れているのが、複合金をうちの工場で成型して、それを肌に二か所貼って針の代わりに家庭で使って頂けるっていうような商品を作っています。このような商品を作って展示会に出たりして、いろんな取り組みをする販売事業というのでも始めていますが、まだまだ事業化できていません。でも、なんでこんなことをやっているかという、先ほども言いましたが、下請けだとやはり自分で値決めができないような仕事で環境に

左右されてしまって、なかなか利益も出なくてという状態をずっと続けてきて、やはりそれだけではなくて、若い人達が自分達で考えた商品が形として世の中に出て行くような、そんな会社にしたいなという思いでこういうことをやっています。

ここからはお仕事発見隊の話にしたいと思います。昨年もお話しさせて頂きましたが、うちの工場の 20 代はベトナムの人 8 人だけで、日本人は一人もいなくなりました。一番若い日本人でも 35 歳近くという状況です。なかなか人がいなくなってるし、この後会社を継いでいく人達が、技術も含めていなくなるなどというところがすごくあって、去年からお仕事発見隊ということで小学生、中学生の子供達にお仕事体験してもらおうということで始めました。去年は、郡上中で実際に 24 社の方々に参加して頂いて、約 70 人ぐらいの子供達が参加してくれました。去年は協賛金もたくさん頂ましてありがとうございます。26 社から協賛金を頂いて事業が成り立ちました。今年も同じように第 2 回目を企画していて、5 月 10 日に説明会を開催して、5 月中に企業さんを募集して、6 月ぐらいにはチラシが作れたらと思っています。今年ではきたら 50 社ぐらい行きたいと思ってるんですけど、去年参加した子供達と保護者さんからすごく好評で、チラシを子ども達が見た瞬間から、家に持ち帰ってお父さんお母さんとどの仕事にしようっていう話をして、これはアプリになっているんですけど、アプリでその会社さんの仕事内容とかを調べます。なので、子供達にとってもすごく楽しみな事業になっていますので、たくさんの職種を選んで頂けるように僕らも頑張りたいなと思っています。なので、いろんな業種のお仕事が体験できるように僕らもサポートしていきますので、ぜひ今年は 50 種類ぐらいの職業を体験させてあげたいと思って取り組んでいます。また、このお仕事発見隊は一つの事業ということで、今年もう一つお仕事体験隊っていう事業の企画が上がっています。この夏休みに体験できなかった企業さんとか子供達向けに、イベント会場に行っているいろんな仕事の体験ができるようなイベントも企画したいと思っていますので、またそちらもご案内しますので、ぜひご協力頂けたらなと思いますので宜しくお願いします。以上です。

ありがとうございました